

れんけいしゅう！

地域医療支援病院
 広島県指定がん診療連携拠点病院
 災害拠点病院
 広島DMA T 指定病院
 日本医療機能評価機構認定病院



TOPICS

- ◆COVID-19時代の乳がんチェック
- ◆消化器・肝胆膵領域疾患の外科治療
- ◆Zoom Web講演会
- ◆がん相談・患者支援センターNEWS

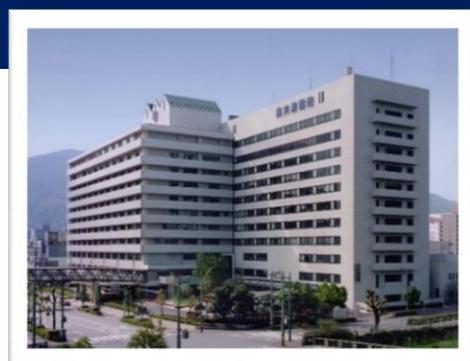
- ～外科 網岡 愛～
- ～外科 中島 亨～
- ～循環器内科 平位 有恒～

病院の理念

高度・良質の医療 最善の奉仕 研鑽と協調 地域医療の支援

基本方針

- 一 良質で、適切な医療の提供に努めます
- 二 患者様の権利を尊重し、満足・安心・信頼を追求します
- 三 新しい知識と技術を積極的に習得し、常に質の高い先進的医療を行います
- 四 地域の中核病院として、地域社会の要請に応える医療を提供します
- 五 職員が意欲を持って働ける病院をめざします
- 六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
- 七 専門的ながん医療の提供に努めます
- 八 国内での医療救護活動に積極的に参加します



地域医療連携室 がん相談・患者支援センターNEWS

	2020年6月	2020年7月	2020年度累計
紹介患者数《初再診全て》	984	900	3428
逆紹介患者数	845	799	3007
紹介率	69.2%	68.9%	69.1%
がん相談	29	25	111

COVID-19時代の乳がんチェック ～ご自分で、介護者が行う乳房セルフチェックの大切さ～

外科（乳腺担当） 網岡 愛

全国的に新型コロナウイルス感染症が流行しています。呉地域では、重症化しやすいとされる高齢者が多く、緊張と不安の中で地域医療を支えて下さっている医療者の皆様に、心より感謝申し上げます。



記憶の新しいところでは、女優の岡江久美子さんが乳がん手術・放射線治療後に新型コロナウイルス肺炎で亡くなったというショッキングなニュースがありました。その後、日本放射線腫瘍学会から「初期の乳がん手術後の放射線治療で免疫力が大きく下がることはまずない」と発表されました。感染者数の多い中国や欧米からの報告では、がん患者さんはそうでない人と比べて新型コロナに感染すると重症化するという報告もあります（差はないとする報告もあります）。当院でも感染リスクを下げべく、病状の安定している術後の患者さんには電話診察での処方も行っています。

新型コロナ流行下のがん治療について、がん関連3学会（日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会）から様々な提言がなされています。ホルモン剤の内服だけで当面は進行を食い止められる大人しい乳がんもあれば、すぐに抗がん剤や手術を行うべき進行の早い乳がんもあります。医療資源の枯渇程度によっても、優先する治療内容を考えなくてはなりません。

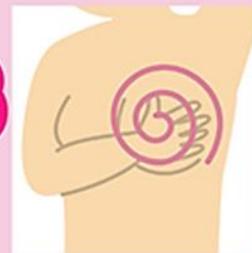
なるべくコロナに罹らないようにしつつ、進行乳がん命を落とすリスクを減らす—そのために、まず行うべきは『**乳房のセルフチェック**』。早い話が、乳房にしこりが無いか触ってみて!!というお願いです。お元気な方はご自分で。自分で行うのが難しい方に対しては、入浴時等にご家族や介護施設職員さんで。

セルフチェックで何かお気づきがあれば、当院乳腺外科を受診して下さい。まずはお電話、かかりつけ医に相談でも大丈夫です。症状の正体を突き止めること、進行がんを放っておかないことがとても大切です。コロナ禍を無事に乗り切ったとしても、進行した乳がんを持って生活して行くことはとても大変なことです。自分を守る、家族を守る、入所者を守る、その第一歩が乳房のセルフチェックです。病院へ行かなくてもできます。この記事をお読みにになり、ご自分やご家族の乳房セルフチェックを行う人が一人でも増えることを祈っています。

触って

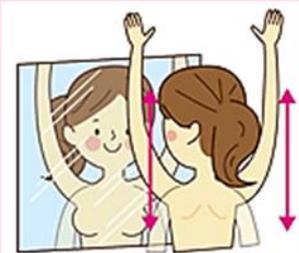
反対の手の4本指で「の」の字を書くように触る。しこりはないか？
仰向けの状態でもチェックを！

乳房とわきの下を！



見て

手を腰にあて、次に両手を上げくぼみ・ふくらみ・変色・ひきつれは？
乳頭をつまんで分泌物は？



消化器・肝胆膵領域疾患の外科治療

外科 中島 亨



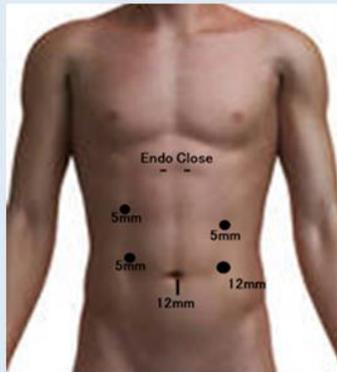
本年4月より呉共済病院外科で勤務させて頂いています。
医師免許取得後、一般外科から始まり消化器外科、肝胆膵外科治療を学び、20年目を迎えました。この間、広島大学病院・呉医療センター・広島市立安佐市民病院にて二次・三次救急治療、消化器・肝胆膵領域癌手術と化学療法、緩和治療に従事して参りました。特に肝胆膵領域外科治療においては、2014年に肝胆膵外科高度技能専門医を取得し、患者さんが術前・手術・術後を通して安心して治療を受けて頂けるよう日々心掛けています。

膵疾患：

(悪性疾患)

膵癌等悪性疾患に対しては根治的手術と併用して術前・術後化学療法を行い予後の延長を目指しています。切除不能進行癌につきましては、化学療法・緩和治療を行いつつ、QOL改善のために必要であればバイパス手術等も行っています。また、悪性との境界病変・悪性化のリスクを有する低悪性度疾患に対しては、ガイドラインに準じて、切除・長期にわたる経過観察を判断し、必要に応じて治療選択をしています。周囲臓器浸潤を認めない膵体尾部腫瘍に対しては、根治性を損なうことなく、低侵襲で整容性に優れた腹腔鏡下膵尾側切除も施行しています。

(腹腔鏡下膵体尾部切除時の手術痕)



(良性疾患)

膵石を伴う慢性膵炎、その急性増悪・症状の内科的治療困難な症例や、膵機能維持を目的とした膵管ドレナージ手術(Partington・Frey手術等)を行います。

肝・胆道疾患：

(悪性疾患)

肝細胞癌・肝内胆管癌・肝門部胆管癌・遠位胆管癌・胆嚢癌・十二指腸乳頭部癌など、それぞれの部位に応じて切除範囲を決定し、切除・根治を目指します。大量肝切除が必要となる際には、放射線科と協力して術前門脈塞栓を行うことにより予定残肝容積を増大させてからの切除も行います。

(良性疾患)

急性胆嚢炎などの炎症性疾患に対しては、早期手術を行うことにより腹腔鏡下手術での完遂率を上げ、患者さんに早期社会復帰をして頂けるよう緊急体制を整えています。また、有症状の巨大肝嚢胞・内視鏡治療困難な総胆管結石に対しても外科治療を行います。

消化器疾患・肝胆膵領域疾患にてお役にたてる機会がございましたら、緊急・予定に関わらず御紹介頂ければ幸いです。今後の御指導を宜しくお願い致します。

コロナ時代の

広島大学循環器内科 中野由紀子教授講演会

循環器内科 平位 有恒

先日、呉共済病院にてオープンカンファレンスを行いました。

講演者は此の度、広島大学循環器内科の新教授になられた中野由紀子先生です。

タイトルは『不整脈の診断と治療 当院で力を入れていること』。

ただ臨床で最先端、大学病院はこんなすごい治療をしています！

という宣伝的内容ではなく（もちろん広島循環器治療の中心

として、経カテーテル的大動脈弁置換術TAVRや経カテーテル的

僧帽弁形成術Mitral Clip、心臓外科の完全胸腔鏡下左心耳切除・

肺静脈隔離術などの紹介もありましたが）、中野先生が色々な

視点から気づき研究してきたこと、特に不整脈の遺伝子診断について、紹介していただきました。ブルガダ症候群での研究が有名ですが、それ以外の特発性心室細動症候群や、頻脈誘発性心筋症など私が知らない研究もたくさんされていたことを知りました。中野先生は私が不整脈医になる門戸を開いてくださった先生ですが、臨床で手一杯の私と違い、臨床と研究をリンクさせて走り続けている姿には感服せざるを得ませんでした。今回の講演を逃した方々には是非、次の機会で見えて聞いて知っていただきたい内容でした。

さて、病診連携強化の目的も今まで3密状態で行われていた講演会ですが、新コロナ時代にはそぐわないので今回我々は新たな取り組みを行いました。Zoomを用いて、中野先生には広島大学病院から遠隔講演していただき、聴衆は院内会場として10階多目的ホールと会議室をsocial distanceをとった席の配置で、またご希望の開業医の先生方にはZoomを用いてご自宅で、ご視聴いただくというハイブリッド型Web講演会です。全て個人のデスクでバラバラに、という完全Web講演ではありませんが、3密を避け、それなりに人と人のつながりもあり(共済病院まで来院された開業医の先生方もいらっしゃいます)、とても良い講演会だったと思っています。遠隔講演ならではの？ハプニングもありましたが、無事多くのご視聴をいただきました。なんでも抑制、自制のご時世の中、当院は今後もこのような講演会を企画して地域医療の発展に貢献したいと考えております。

